

# 宮内小授業モデル

～学習規律の徹底とユニバーサルデザイン・生徒指導の三機能を生かした授業づくりをめざして～

## ◇学習環境について◇

### <整理整頓>

- ◆提出物を出す場所や学習用具を片付ける場所等を分かりやすくし、整然とした環境にする。
- ◆黒板はすっきりとしておく。その時間に必要でないものを掲示したり、書いておいたりしない。

### <掲示物>

- ◆必要なことに児童の注意を向けさせるために、前面の掲示物は必要最小限にとどめる。  
前面には、学校・学級目標のみ掲示する。
- ◆「時間割表」や学習指導に必要なものを配置し、必要に応じて児童に提示できるようにする。
- ◆見通しを持って学習できるように、本日の学習予定や明日の予定を丁寧に書く。

### <机の並び>

- ◆一斉学習では、指導者と児童が正対するように机を配置する。

## ◇授業前の指導について◇

### <整理整頓>

- ◆床にごみが落ちていないか、机の並び、机上の物がきちんと整理されているか確認する。
- ◆机には、その時間に必要な最小限度の物のみを置かせる。

### <身だしなみ>

- ◆服の袖から手が出ていない、シャツ出しやボタン外れ、シューズのかかとふみ等について、きちんと点検・指導してから授業を始める。机の横のフックは、可能な限り使わない。
- ◆机の背もたれに服をかけさせない。→ ロッカーやランドセルに入れる。

### <姿勢>

- ◆両足の裏を床に付け、背筋を伸ばし、背もたれにもたれないようにする。(グー・ピタ・ピン)

## ◇授業について◇

### <授業始めと終わり>

- ◆日直は教卓前に出て号令をかける。

[授業始まりのあいさつ]

「服装を整えましょう。」

「立腰。」(日直が声かけ、担任が確認)

「これから、○時間目の○○の学習を  
始めます。」(はい)

「礼。」(お願いします)

[授業終わりのあいさつ]

「立腰。」(日直が声かけ、担任が確認)

「これで、○時間目の○○の学習を  
終わります。」(はい)

「礼。」(ありがとうございました)

### 【自己決定の場を与える授業】

児童が、自らの言動を選択・決断し、実行(表現)し責任をとるという場を設定する。

- 問題解決的な学習を仕組む。
- 対立・多様な考えを生む発問等を工夫する。
- 一人で調べ考え判断する時間を設ける。
- 自分の考えをはっきりさせるために書く活動を保障する。(ノート指導の工夫)
- 課題・方法等を選択・決定する場を設ける。
- 個人・グループ・全体学習等、学習形態を工夫し、他者に学ぶ場を設ける。
- 学習を振り返り今後の学習について考える場を設ける。

## <学習の流れの説明>

- ◆授業の始めに、本時の学習の見通しを持たせる。

## <指示の仕方>

- ◆1回の指示は、1つの内容にとどめる。聞きながら書くなど、同時に複数のことをさせない。
- ◆指示は、簡潔にゆっくり・はっきり出す。
- ◆学習方法・順番・内容が視覚的に分かるようにする。

## <板書の工夫>

- ◆本時の目標（めあて）を明確に板書する。学習のポイントが分かるようにする。
- ◆文字を書く際には、チョークの色は基本的に白色を使い、大切な所やアンダーライン等に色チョークを使う。
- ◆授業の途中で板書を消さないように、板書計画を立てる。
- ◆ノートに写させる時間を保障する。

## <学習指導の工夫>

- ◆机間指導の時間を必ず設け、個々に学習理解等の様子を把握したり指導したりする。
- ◆授業の中に、できるだけ学習の隙間を作らない。
  - ⇒一つの学習を終えたら、次にすることを明示。
  - ⇒〇つけのために児童を並ばせない。
  - ⇒基本・発展問題等、個に応じた問題を準備する。
  - ⇒一部の児童の発表だけで授業をしない。  
横着で挙手しない、意見や思いがあるのに発表しないなどの状況や雰囲気を作らない。
- ◆学習に参加しやすくさせたり、学習を深めたりするためのペアトークやグループ学習を効果的に入れる。

## <時間の厳守>

- ◆授業は必ず、チャイムで始めチャイムで終わる。
- ◆タイマーを鳴らして急に終わったりするのではなく、「1分が過ぎました。半分ぐらい進んだかな。」「残り30秒です。」等と児童に伝えながら、見通しを持って学習をさせる。

## <発表の仕方と聞き方>

- ◆発表する人は、児童の中心の方向を向いて話す。
- ◆机や椅子に寄りかかったりせず立ち、発言する。
- ◆聞く人は、発表者の方を向きうなずきながら聞く。
- ◆発表をする時、児童間で、意識的に名前を言わせる。  
(例)「～くんの考え方について…」  
「～さんの意見に付け加えて…」

## <指導者の言葉づかいについて>

- ◆児童を指名する時は、「～くん」「～さん」。
- ◆発問・指示・説明等は、敬体（～です、～ます）。

## 【自己存在感を与える授業】

児童一人ひとりの存在をかけがえのないものとして尊重し、他者とのかかわりの中で、学ぶ楽しさや成就感を味わわせる。

- 教師自ら児童の意見を大切にす姿勢を示す(誤答の扱い・ネームプレート等の活用)
- 指導過程の工夫・意図的な指名により全児童が発表・活躍できる授業づくりをする。
- 自由な発想や方法が認められ、自己選択できる場を工夫する。
- 互いの発言を最後まで聴く習慣や誤答を大切にす習慣を身につけさせる。(教師が間違っただけを大切にす指導をする。)
- つぶやきを積極的に取り上げて全児童に発表のチャンスを与えるようにする。
- 児童の名前を呼んで、目を見て話したり語りかけたりするようにする。
- 承認・賞賛・励ましの言葉がけを積極的に行う。

## 【共感的な人間関係を育成する授業】

教師と児童、児童同士が、互いに人間として尊重し合い、受容的・共感的な態度で接し合い、共感的に深く理解し合う人間関係づくりを図る

- 発言の場の公平性などが守られるように「学習ルール(規律)」の徹底を図る。
- 教師は、聴き方の見本・発言のつなぎ方の見本を示す。児童にはモデルを提示して指導する。
- 友達の見解に対してうなずいて聴いたり、拍手したりする態度を育てる。
- 間違いや異なった考えを理解する人間関係づくりをする。
- 他者の発言や作品のよさに気づき学ぼうとする態度を育てる。
- 他者の気持ちや立場を考えて自分の言動を選択・構成する態度を育てる。
- 発言をつなげ、集団での学び合いとなる場を設ける。
- 教師の意図と異なる考えを抑圧したり切り捨てたりしない。
- 児童相互の学びを促すためにソーシャルスキルを教える。